

米国地球物理学連合秋期大会(AGU Annual Fall Meeting)の招待講演で登壇しました (2011/12/5-9)

12月5日から12月9日にかけてアメリカ・カリフォルニア州・サンフランシスコで開催された米国地球物理学連合秋期大会(American Geophysical Union(AGU) 2011 Fall meeting)に当センターの菅原研究員が参加しました。第1日目の午後のセッション1”The 11 March 2011 Tohoku Tsunami: Field Observations and Modeling II”(東北地方太平洋沖地震津波：現場観察とモデリング2)の最後に、招待講演として”The 869 Jogan and the 2011 Tohoku-oki earthquake tsunamis (NH13G-08)”(869年貞観地震津波と2011年東北地方太平洋沖地震津波)と題して講演を行いました。講演は、2011年3月11日までに明らかにされていた貞観地震津波についての歴史史料や堆積物の分布、波源(震源域)について、過去の研究のレビューと、貞観地震・津波と東北沖地震・津波の浸水域・地震規模を比較する内容です。貞観津波についてはAGUでも関心は高く、多くの参加者が本セッションを訪れました。AGUでは東北沖津波に関連する多くのセッションが設けられ、国内外の研究者が最新の調査・解析結果を公表していました。

AGUでの発表に関連して、アメリカ地質調査所(United States Geological Survey; USGS)の研究者の案内で、サンフランシスコ近郊のHalf Moon Bayにある低湿地Pillar Pointを見学しました。この湿地では、1946年アリューシャン地震津波が押し寄せて被害をもたらすとともに、堆積物として砂層が残されたと見られています。それ以前の津波の痕跡も保存されていると期待されており、コアの掘削が行われています。この場所は自然保護区として指定されているため、今回は湿地内への立ち入りはせずに、掘削されたコアの観察を行いました。当研究室では本年5月以降、USGSを含めた各国の研究者と東北沖津波の共同調査を行っており、AGU参加に際して、今後も協力関係を継続することを確認しました。



会場の入口



会場内の様子

写真出典：<http://sites.agu.org/fallmeeting/2011-fall-meeting-a-success/>